

令和6年度 特定分野に得意な 才能のある児童生徒への 支援の推進事業



名古屋市教育委員会

新しい学校づくり推進課

REPORT



目次

1. 研究概要
 2. 研究内容
 3. 実証研究の分析
 4. 実証研究の成果と課題
- 

1. 研究概要

(1) 研究テーマ

一人一人の個に応じた学びを支える
「緩やかな協働性」の創り手となる児童の
育成とカリキュラムデザインの研究

(研究課題)

特異な才能のある児童を含む全ての子どもたちが互いに尊重される授業や学級経営の在り方など、多様性を包摂する学校教育環境の在り方について明らかにする。



1 . 研究概要

(2) 概要

(実証研究協力校での核となる授業実践)

週に5～10時間程度、児童が「いつ学ぶか」「何を学ぶか」「どこで学ぶか」「どのように学ぶか」を自分で選択する複数教科同時進行型の自由進度学習（セレクトタイム）

(大切にしたい視点)

全ての子どもが互いに尊重され、誰もが必要な時に、必要な仲間と協力できる「緩やかな協働性」が自由進度学習の基盤となっている

(研究の方向性)

- 子どもたちが自律した学び手となるために、子どもたち自身が「緩やかな協働性」の創り手となることを目指し、実証研究協力校において取り組む学級づくりの実践の更なる改善・充実
- カリキュラムデザインとして、児童の積み重ねた経験や学級の状況との関係における自由進度学習の進め方や、学級づくりの実践をカリキュラム上において整理する

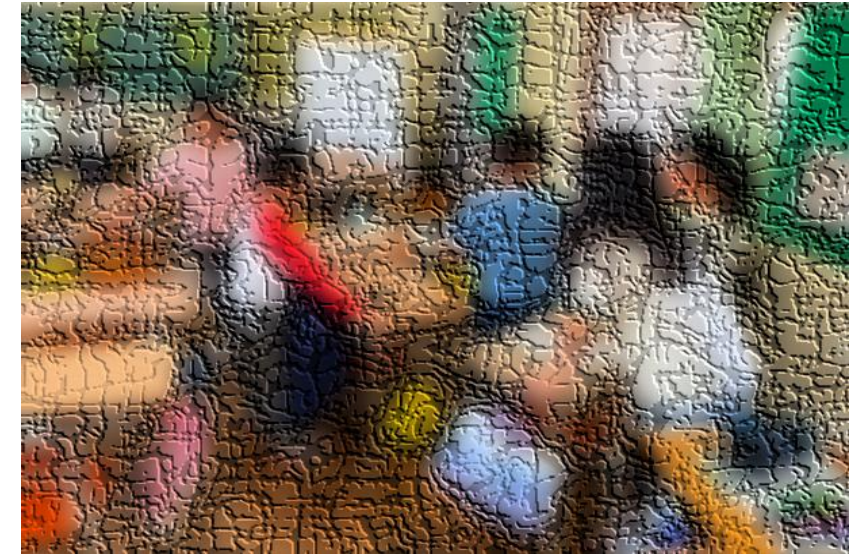
2. 研究内容

(1) 対象学年

下記の対象学年で調査研究する。

A 教諭の学級
中学年○年生

B 教諭の学級
高学年□年生



2. 研究内容

(2) 研究における取組

① 運営指導委員会

「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業」
運営指導委員会構成員名簿

氏名（敬称略）	所属・役職等
苫 野 一 徳	熊本大学 教育学部 准教授
山 口 裕 也	一般社団法人School Transformation Networking 代表理事
久 保 礼 子	学校法人茂来学園大日向小学校中学校 校長
青 山 光 一	学校法人茂来学園大日向小学校 カリキュラムマネージャー

2. 研究内容

(3) 研究における取組

② 効果検証

一般社団法人 School Transformation Networking（以下、ScTN）が提供及び管理する、児童生徒の自己評価を回答方式とした主体的・対話的で深い学びのための意識・実態調査である、ScTN質問紙を活用する。

測定するものとしては、

- 主体的・対話的で深い学びを中心とした「学校教育の経験」、
- 経験がもたらす「成長」としての「学びに向かう力」と「人間性」の育成状況、
- 経験と成長を通した「学校教育の成果の実感」

の3つである。

測定した数値により、現在の学びのあり方を振り返り、主体的・対話的で深い学びを実現するために必要なことを検討するうえで、参考となる支援ツールである。

（参考引用HP：一般社団法人ScTNホームページ <https://sctn.jp/>）

2. 研究内容

(2) 研究における取組 ③ ScTN質問紙 ベーシック（33問）の主たる指標

領域	観点		評価規準	質問内容
学習経験	個別の学び	v1	個性化した学習	授業では、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学んでいる。
		v2	個別化した指導	授業中、分からないことがあれば、先生が自分に合わせて教えてくれる。
	協同の学び	v3	内発的な協同	授業では、自分が必要なときに、必要な仲間と協力しながら学んでいる。
		v4	協同の活用	授業では、他の人の意見や考えを自分の学習に生かしている。
	探究の学び	v5	挑戦的集中	授業では、挑戦と失敗を繰り返しながら、問題や課題の解決に取り組んでいる。
		v6	内発的な探究	授業では、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる。
	本物の学び	v21	状況に埋め込まれた学習	授業では、普段の生活のことや、社会で問題・話題になっていることを材料に学んでいる。
		v22	自己決定に貫かれた学習	授業では、「授業を進めるのは、先生ではなくて、自分だ」と思いながら学んでいる。
	民主的な学校生活	v7	民主的な学級づくり	学級みんなに関わることは、自分たちで、全員の考えや気持ちを確かめてから決めている。
v8		民主的な学校づくり	学校生活で誰かが疑問に思ったことは、全校で話し合ったり、みんなで合意して変えたりしている。	
資質	学び方（学ぶ力）	v9	学習の自己調整性	新しいことを学んで身に付けようとするとき、自分で計画を立てて、学習を進めることができる。
		v10	学習の主体性	自分が必要だと思ったことは、人に言われなくても、自分から学んでいる。
	自己効力感	v11	自己の成長可能性への確信	自分は努力をすれば、大体のことはできるようになると思う。
		v12	回復力	自分は、失敗したとしても、その経験を次に生かすことができる。
	自己の受容	v13	自己の肯定面の受容	自分には、自分なりに「良い」と思えるところがある。
		v14	自己の否定面の受容	自分に短所や欠点があっても、「自分らしさ」だと思える。
	他者への受容	v15	受容の態度表明	相手が話そうと思っていることは、最後まで聞いている。
		v16	相手への認知的共感	相手が、自分とは違う考えや気持ちでも、最初から否定しないで受け止めている。
	他者からの受容	v17	仲間からの認知的共感	学校には、自分の考えや気持ちを分かってくれる仲間がいる。
		v18	先生（学校職員）からの認知的共感	学校の先生は、自分の考えや気持ちを受け止めてくれる。
	集合効力感	v19	学校生活の変革可能性への確信	学校での生活は、自分たちが協力することで、自分にとってもみんなにとってもよりよいものにできる。
v20		地域社会の変革可能性への確信	今住んでいる地域は、自分たちが協力することで、そこで生活する全ての人にとってよりよいものにできる。	

※ は効果検証の主たる指標（KPI）を示す。

※ 平均・標準偏差は、回答5＝5点～回答1＝1点に換算した上で算出した。

※ 肯定率：全回答に占める回答5と4の回答数の割合

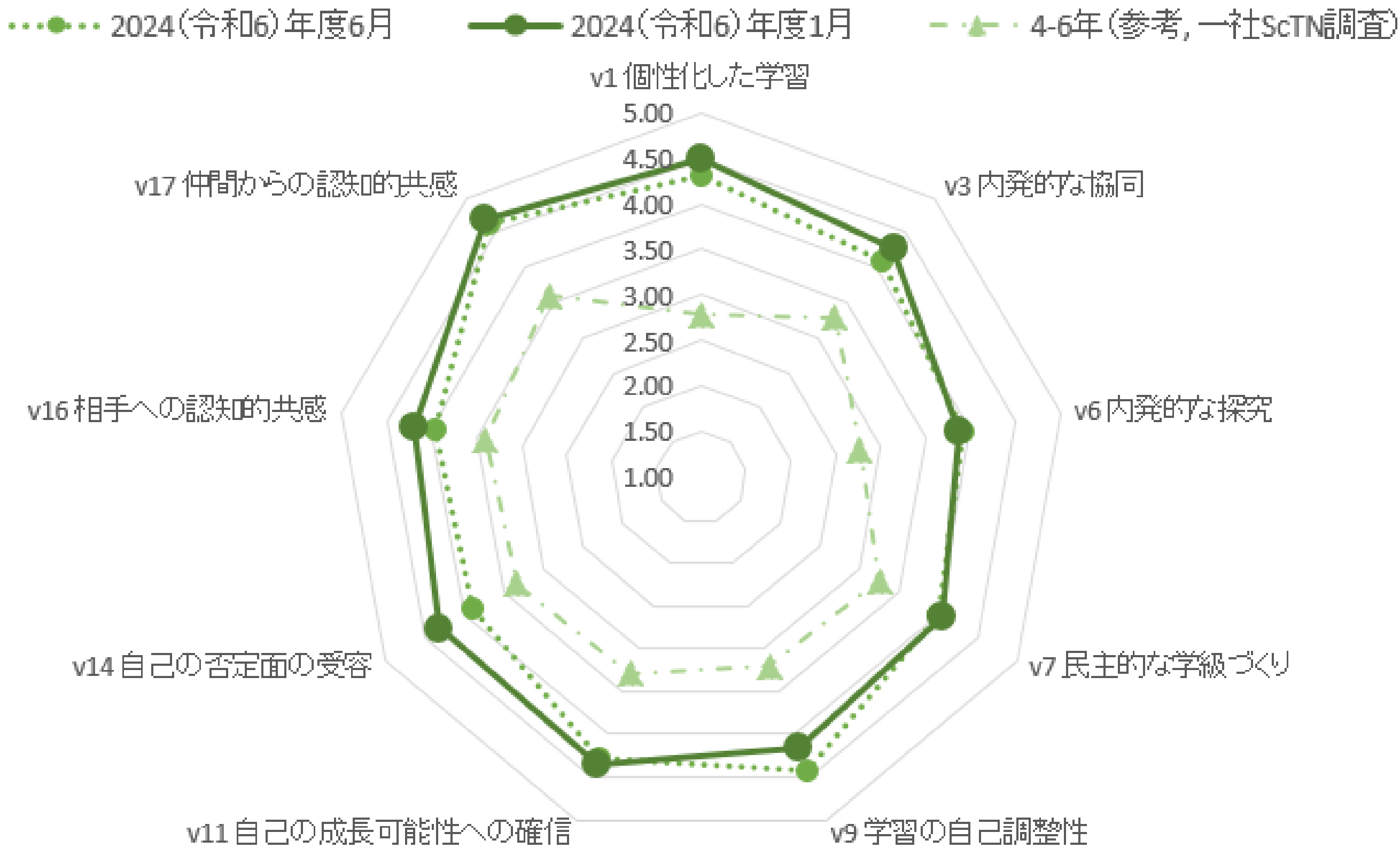
※ v21, 22は2023（令和5）年度2月調査から追加した。

※ 一社ScTN調査による参考値は、同法人の提供・管理下にあるScTN質問紙の作成過程で行った調査結果のうち小学校第4-6学年の平均値（以下で一般公開）

2. 研究内容

(2) 研究における取組 ③ ScTN質問紙 ベーシック（33問）を採用

〇年生



2. 研究内容

(2) 研究における取組

④ 教師インタビュー

半構成的インタビューをR6.3月に実施

（一般社団法人School Transformation Networkingによるインタビュー）

- 1年間の振り返り
- 特筆すべき児童を中心に、全ての児童が学級に包摂され、自分らしく学んだり生活したりすることができた要因について
- 特筆すべき児童が学級に包摂された重要な要因
- 特筆すべき児童の周囲の児童の様子
- 特筆すべき取組や児童の変化等

3. 実証研究の分析

一般社団法人School Transformation Networking
による調査分析を引用

質的研究の一つであるM-GTA（修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ）により教師インタビューで得られたデータについて分析し、生成された理論と学級での児童の行動観察、ScTN質問紙の結果、児童インタビューなどのデータと照らし合わせて明らかになったことを示す。

（分析テーマ）

特異な才能のある児童生徒を含む全ての子どもたちが互いに尊重される授業や学級経営の在り方など、多様性を包摂する学校教育環境の在り方について、教員と児童の両焦点から明らかにする。

※ 公教育の本質である「各人の自由及び社会における自由の相互承認の実質化」と、正当性の原理である「一般福祉（一般意志に基づく普遍福祉）」に基づく。

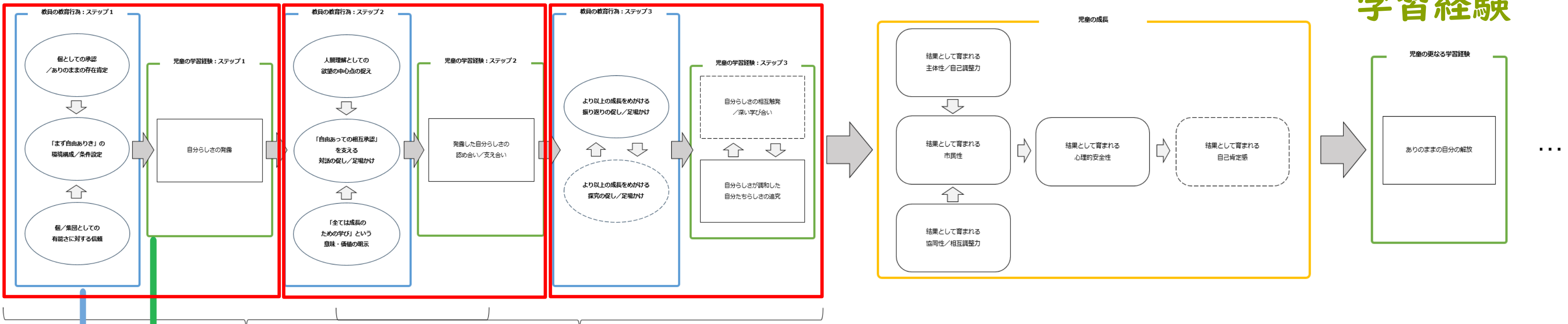
3. 実証研究の分析

ANALYSIS

(1) 生成した理論

「全ての児童に多様性の包摂を通じて自由と自由の相互承認を実質化する、
学校教育環境の在り方モデル」

3ステップ



全ての児童が自分らしく学んだり生活したりすることを妨げられない学校教育環境

児童の学習経験

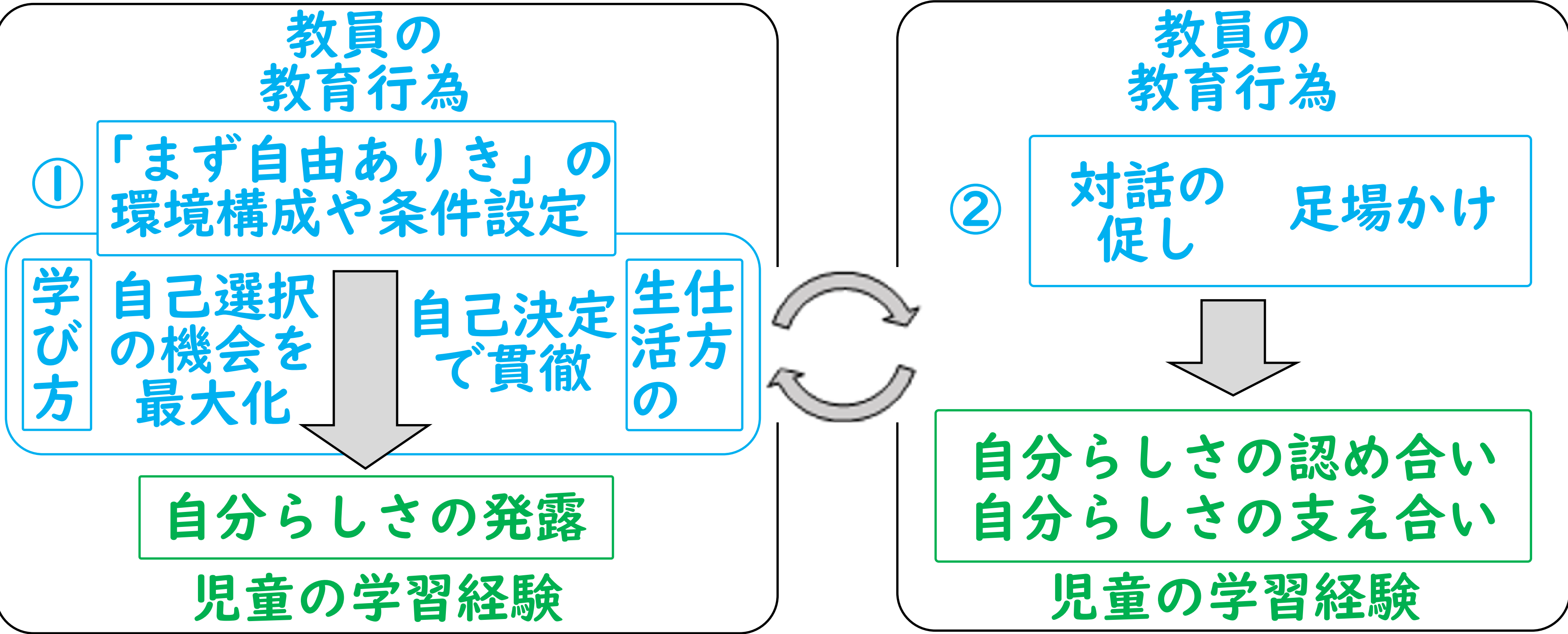
教員の教育行為

全ての児童が互いのらしさを認め合い、高め合って学んだり生活したりできる学校教育環境

図 全ての児童に多様性の包摂を通じて自由と自由の相互承認を実質化する、学校教育環境の在り方モデル
——実践の再現可能性を高めるために、三つのステップを基本としたプロセスとして関係図化

凡例
楕円：教員の教育行為（概念） 長方形：児童の経験（概念） 角丸長方形：児童の成長（概念） 太線長方形：カテゴリ 矢印：主たる影響（因果）関係
実線：2名から得られた概念 点線：1名から得られた概念

(2) 簡素化した関係図

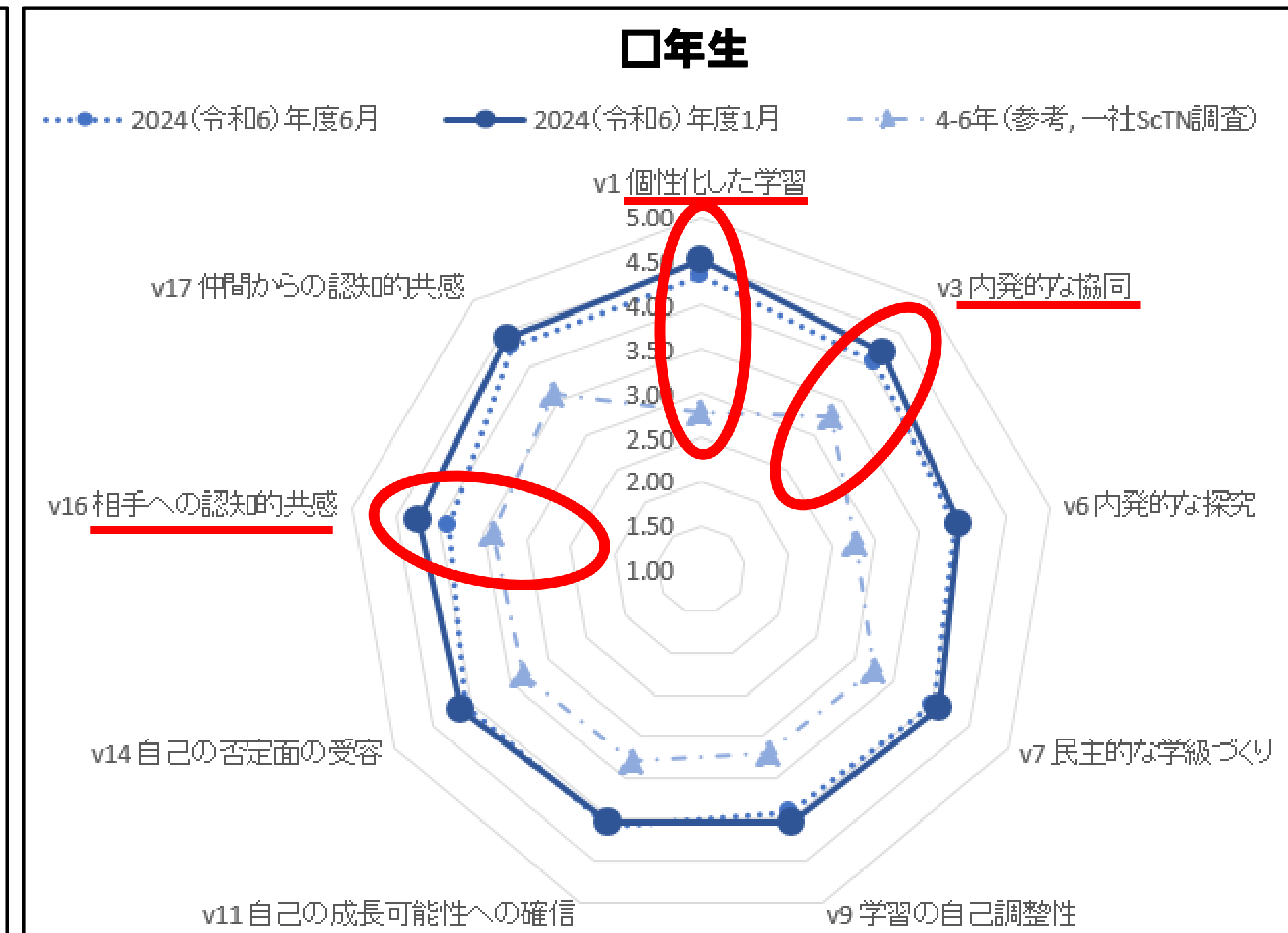
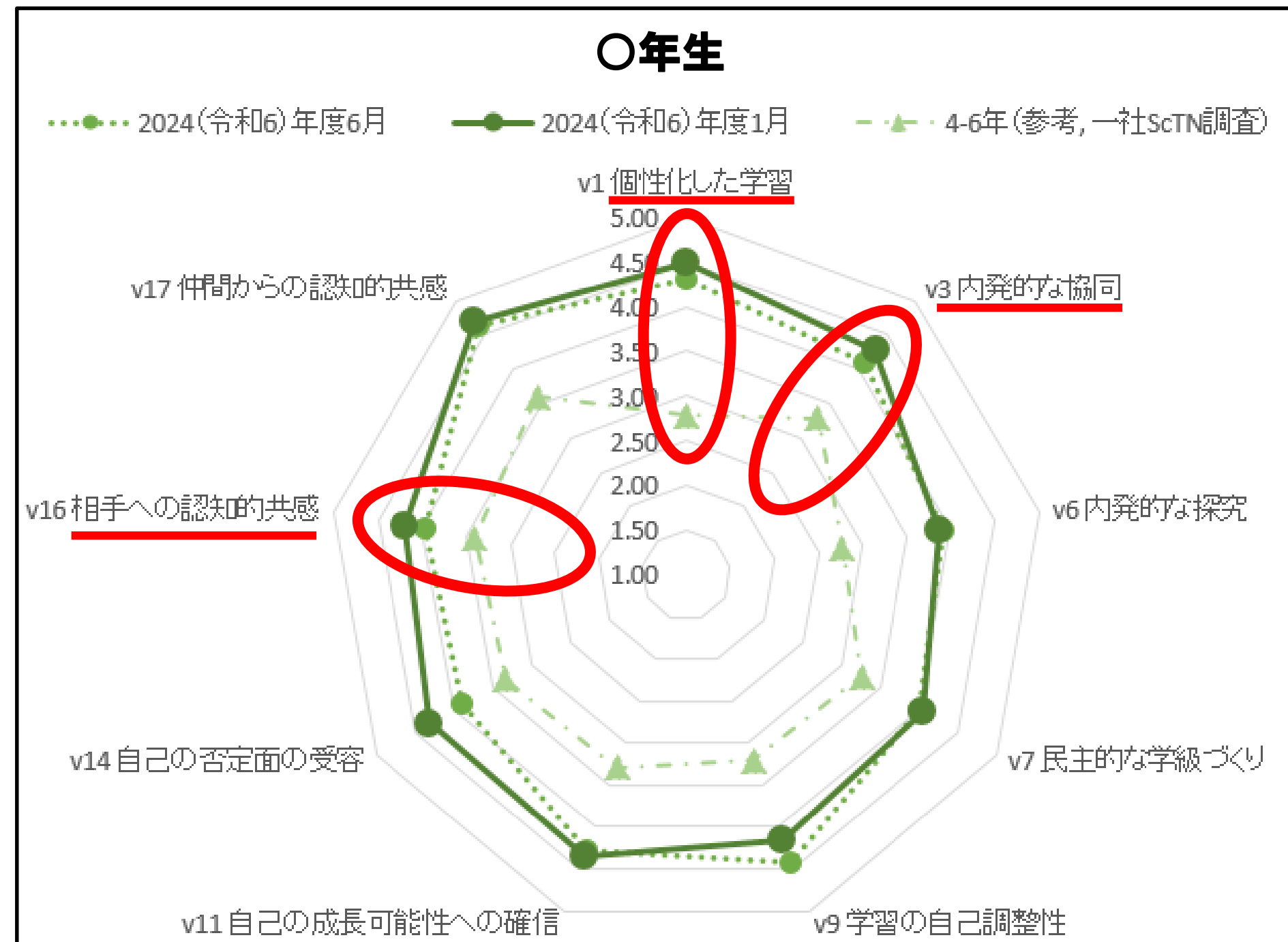


特異な才能を有する児童を含めた、全ての児童が学級に包摂されていた

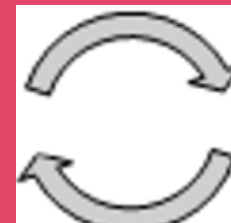
3. 実証研究の分析

ANALYSIS

(3) ScTN質問紙の結果について（6月、1月）



①まず自由ありき
→個性化した学習



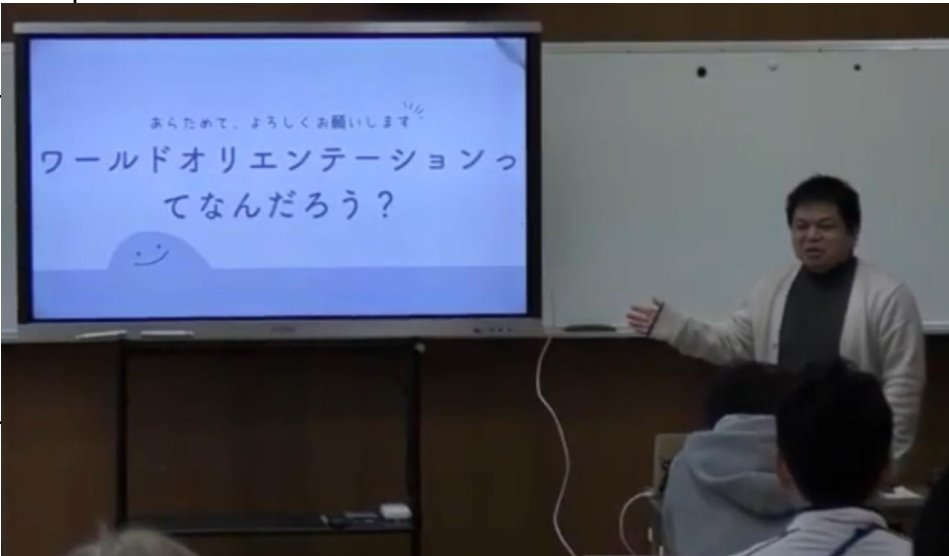
内発的な協同への②足場かけ
→相手への認知的共感

3. 実証研究の分析

ANALYSIS

(4) 実践の参考にした現職教育での学び

月日	講師名	内容
4月15日	愛知教育大学 非常勤講師 深見太一先生	クラス会議の模擬授業 クラス会議教員研修
5月16日	一般社団法人子ども・青少年 育成支援協会 代表理事 村中直人先生	現職教育 「ニューロダイバーシティに ついて」
10月31日	前 風越学園副校長 甲斐崎 博史先生	アドベンチャープログラム 模擬授業・現職教育
1月16日	大日向小学校 教務主任 秋山 真一郎先生	模擬授業・現職教育 「ワールドオリエンテーションって なんだろう？」

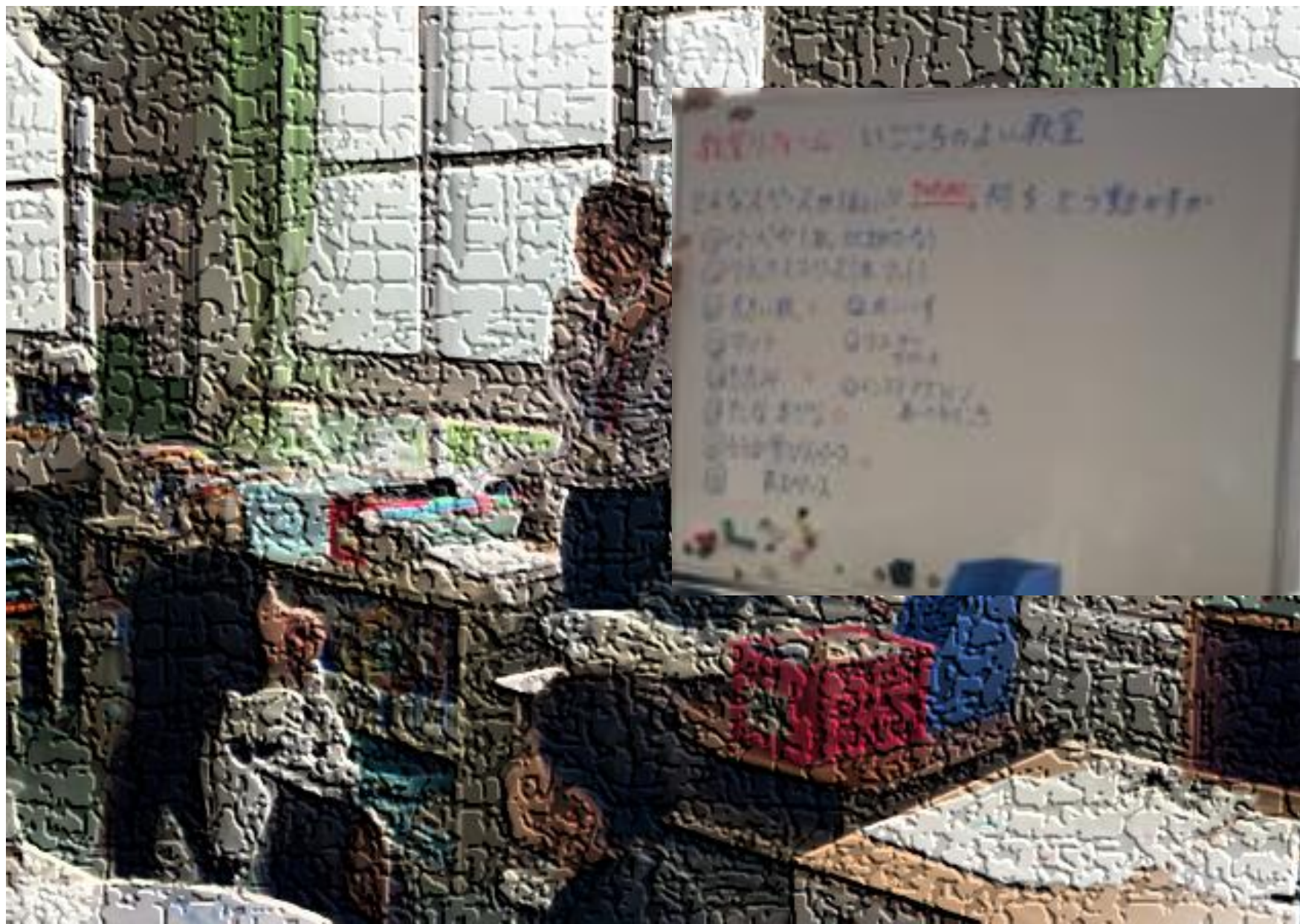


ANALYSIS

(5)

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月～
実践内容	自分の命を守る (○年)							
	教室 リフォーム (○年、□年)		 クラス会議	 アドベンチャープログラム				
	クラス会議 (○年)	学級目標 (□年)			※ クラス会議や教室リフォームは適宜行っている			
	会社活動、学級通信 (○年、□年)							
	アドベンチャープログラム、ジャーナル、ペアトーク (○年)							
	セレクトタイム (○年、□年)							

教室リフォーム (○年)



みんなにとっていざこち
のよい教室を考えよう

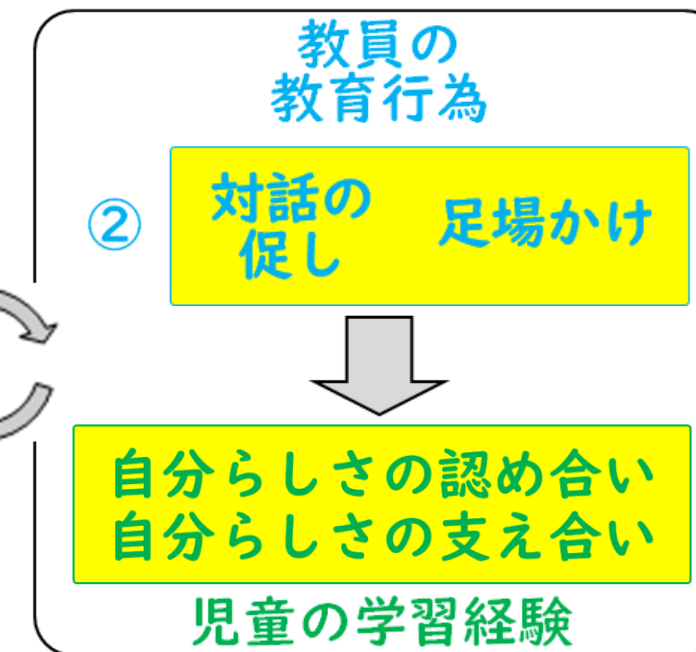
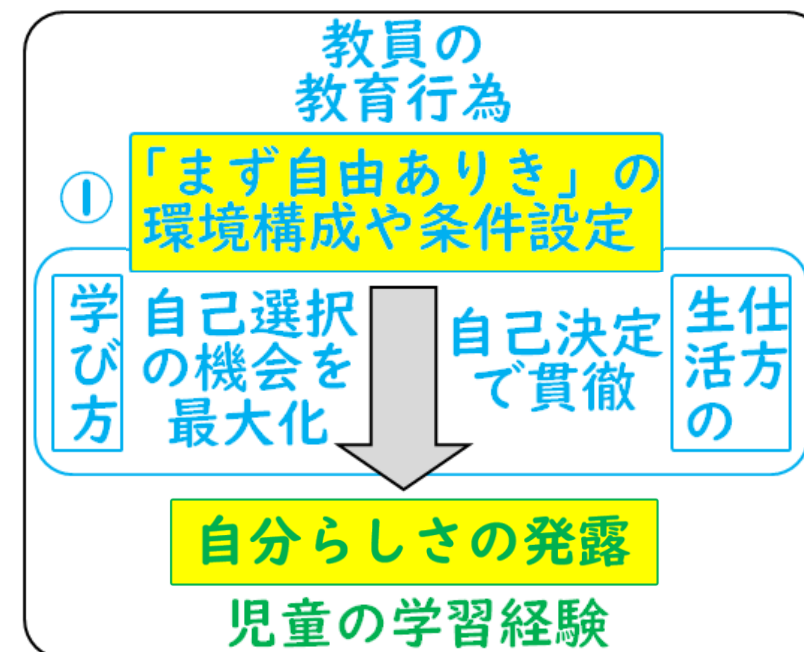


積極的に発言するA児

教室リフォーム (〇年)

みんなの思いを受け止める
姿勢

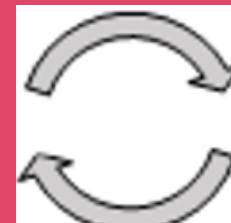
(みんなが耳をふさぐ大きな音でも)
きれいな音出せるようになったね



誰かの意見を引っ込
めるような
言い方はしない!

みんなにとって
ちょうどいいを
考えよう

①楽器の音も否定しない
→自分の思いを素直に出す



②みんなにちょうどいいを考える
→互いの思いを受け止める

教室リフォーム (○年)



みんなの考えをまとめる話
合いの司会を務めるA児



みんなが進んで教室リフォーム
に取り組みました

セレクトタイム
(○年)

セレクトタイムってどんな学習？

「いつ」「どこで」「何を」

「どのように学ぶか」

→ 子ども自身が**選択・決定**

して進める学習



セレクトタイム
(○年)

単元進度表

週計画

インストラクション

5年生 算数 「単元進度表」

プロジェクト名 「小数のわり算マスターになろうPJ」①

単元のゴール（学習内容）：小数のわり算を筆算や暗算で求めることができるようになる。
図を用いたり、小数の仕組みや計算の決まりを用いたりして、面積や体積、文章問題を解くことができる。

単元のゴール学び方 「互いのできる・わかるをさらに尊重し合う」「説明上手」

時間	ページ	問題	「今日のゴール」	計ス	振り返り
1 みんな	52～53	□1	インストラクション 「小数のわり算」とは	25	
2	54～55	□274 △3	だいち・ひなた・さくらの解き方を説明できるようにする。(整数÷小数)	26	
3	56～57	□174 □274 △3	整数÷小数のわり算を式に表し、その計算をすることができる。積の大小関係を調べ、理解することができる。	27	
4	58	□12 △345	小数÷小数のわり算を式に表し、その計算をすることができる。	28	
5	59	□12 △34	小数÷小数の筆算ができる。	29	
6	60	□57 △689 10	1けたや2けたの小数のわり算の筆算を理解し、説明することができる(△10)	30	
7	61	□1174 △21314	わり切れないときの商をがい数で表すことができる。	31	
8	62	□1 △23	あまりのあるわり算で、筆算で商とあまりを求めることができる。	32	

チェックテスト①先生に提出。先生が○付けをします！

さあ、小数のわり算は理解できたかな？②

3年4組時間わり (6/19～6/23) ()

	月(19)	火(20)	水(21)	木(22)	金(23)
	朝の会	毛筆の用意	ミニセレクトタイム	ミニセレクトタイム(着替え)	ミニセレクトタイム
1	音楽室先生	書写毛筆先生	社会①	★⑥(体育水泳)	理科①
2	1週間の計画 社会 インストラクション	算数①	算数②	社会②	理科②
3	国語インストラクション図書室	国語①	国語②	算数③	国語③
4	聴力検査 道徳	体育館 マット運動	体育水泳(★ST⑦)	音楽先生	学活会社活動
5	理科インストラクション★①	図工 身近な色・形の具・ペン	理科 ゴムや風の力	ふれあい活動 3-4 2-4 1-4	外国語先生
6		図工 身近な色・形の具・ペン	理科 ゴムや風の力		今週のふり返りと来週の予定
持ち物			水泳カード 水泳の用意	水泳カード 水曜日までにできなかった時	

★ ST(セレクトタイム)自分で計画をたてよう。1週間の流れをつかもう。

【今週の課題】★の数だけ、教科の計画を立てましょう。

★3 国語	俳句にししむ(1) 本で調べよう(2)	★2 社会	工場ではたらく人 まとも資料作り
漢字のとびら	P44P45 力だめし③テスト	★2 理科	植物の育ち方 ゴムや風の力(いっしょに)
★3 算数	表とグラフ	体育 3時間	水泳 マット運動
アイテム	P110・P111	図工 2時間	身近な色・形
ミニST	テストなど	総合	ふれあい活動 ふり返り
サークル対話	クラス会議をひつような時にやろう	学活 道徳	会社活動 自分とちがう意見も

ふり返り 次はどうする？



振り返り

7つのエッセンス(横)と指標・計画と振り返り						
進んで取り組む	計画する	協働する	生み出す	プレゼンテーションする	振り返る	責任をもつ
仲間とつながる	一定期間の予定を言う。	仲間と分け合う。	新しいことを思いつく。	友達の前立つ。	起きた出来事を言う。	「なぜその学び方を選んだのか」を説明する。
進んで学ぶ	自分が何をしなければいけないか言う。	仲間の「考える時間」を大切にする。	いつも問い続ける。	自然で、自分らしく表現する。	何を学んだのかを言う。	ひつような学習用具をじゅんびし、片付ける。
探究する	課題に必要な時間を考える。	相手の立場に立って考える。	代わりのアイデアを思いつく。	聞き手と心を合わせて話す。	仲間のアドバイスを受け止める。	自分と仲間の選択の自由を大切にす。
自分の強みを生かす	順序を考えて進める。	説明を聞いたり、説明したりする。	困難があってもあきらめずに努力してやりとげる。	ジェスチャーを使って表現する。	仲間にアドバイスする。	分からないことはだれかに説明を求める。
心の目指すところを高くもつ	自分なりの学習目標を立てる。	他の人を助ける。	自分自身のベストをつくす。	はっきりとした言葉と声を使って表現する。	自分の行動を評価する。	自分がしていることについて仲間説明する。
目標意識をもって考える	1日や1週間の計画を立てる。	人からの助けを受け取る。	発想を切りかえる。	自分の考えをうまく言葉で表す。	自分の学び方を見直し、改善する。	ルールの必要性について理解する。
情報をさがす	計画を修正する。	約束を守る。	仲間のアイデアに合わせる。	自分のプレゼンをよく考えうまく行う。	自分の成長を伝える。	やらなかった理由を説明する。

7つのエッセンスから1つずつ指標を選択しよう。(計画:黒丸 振り返り:赤丸)

セレクトタイム (〇年)

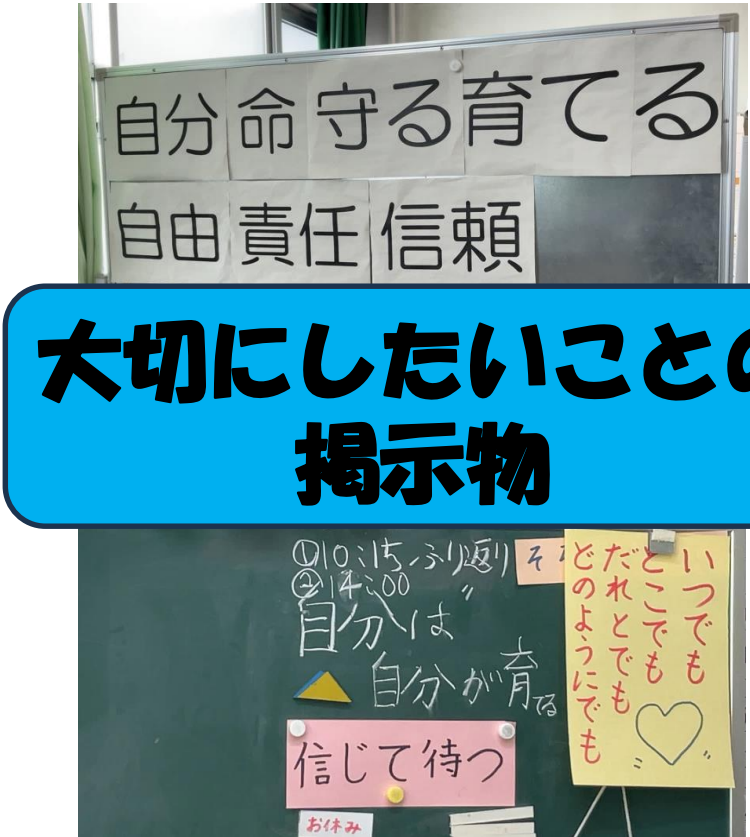
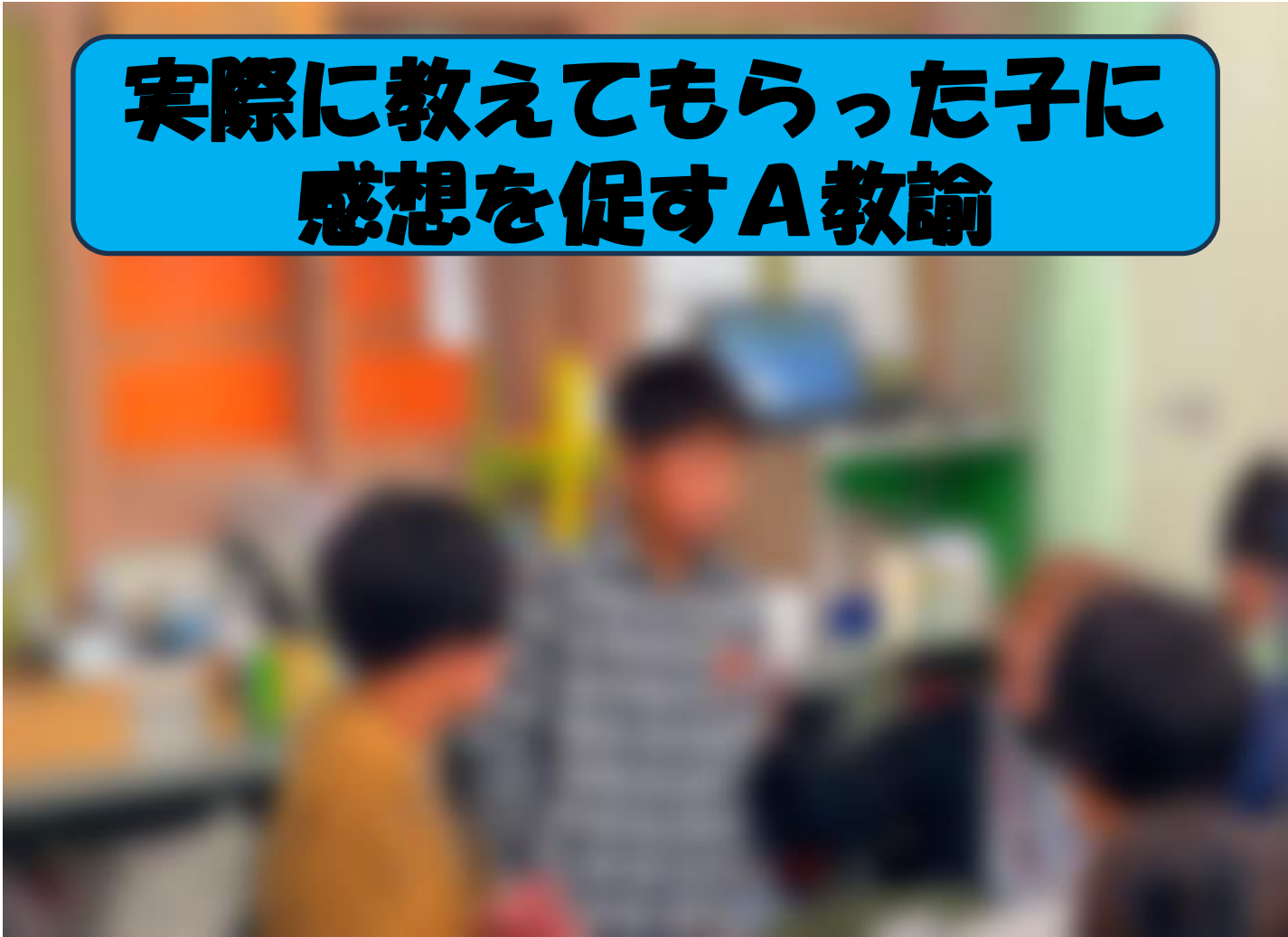
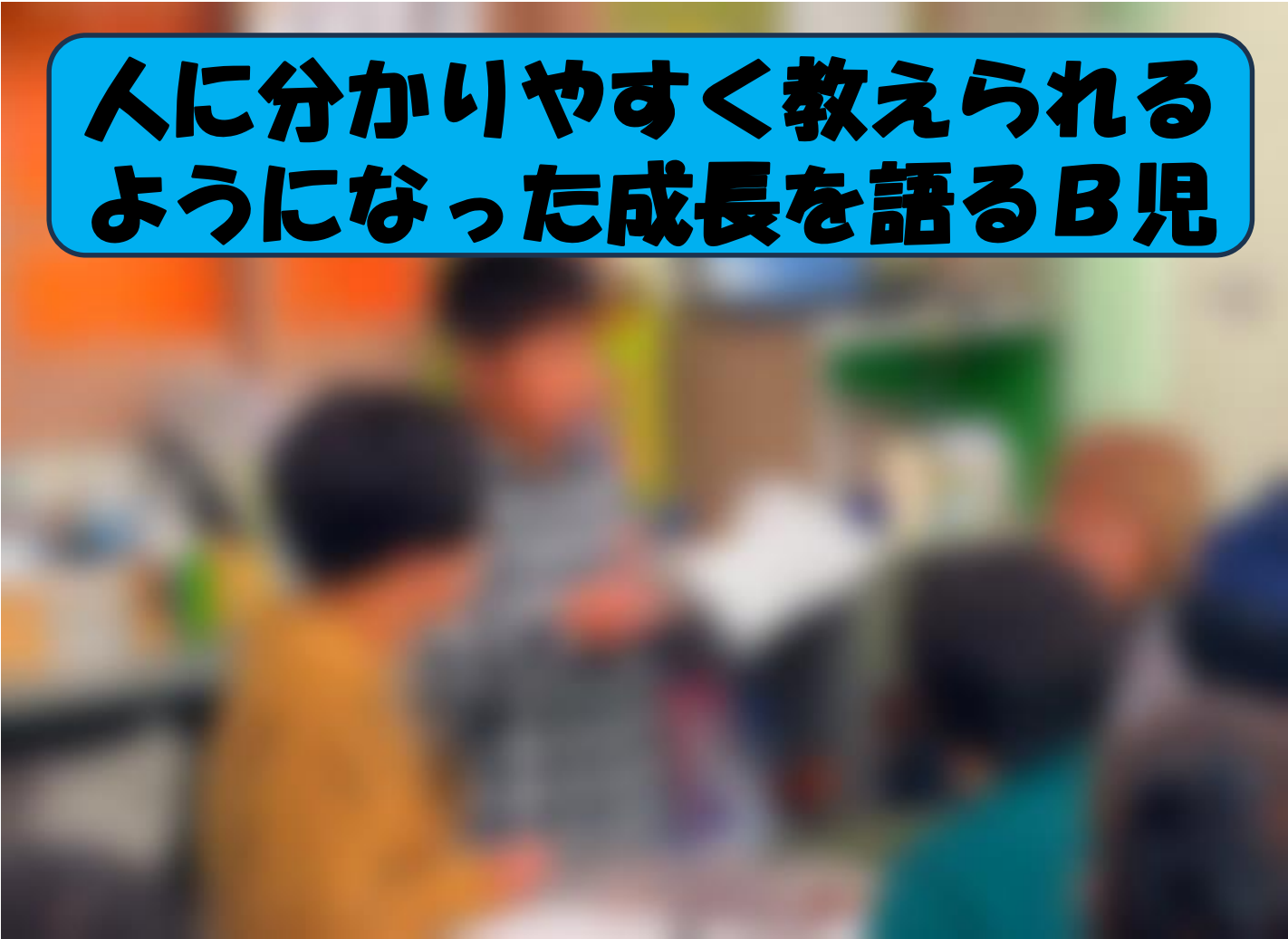
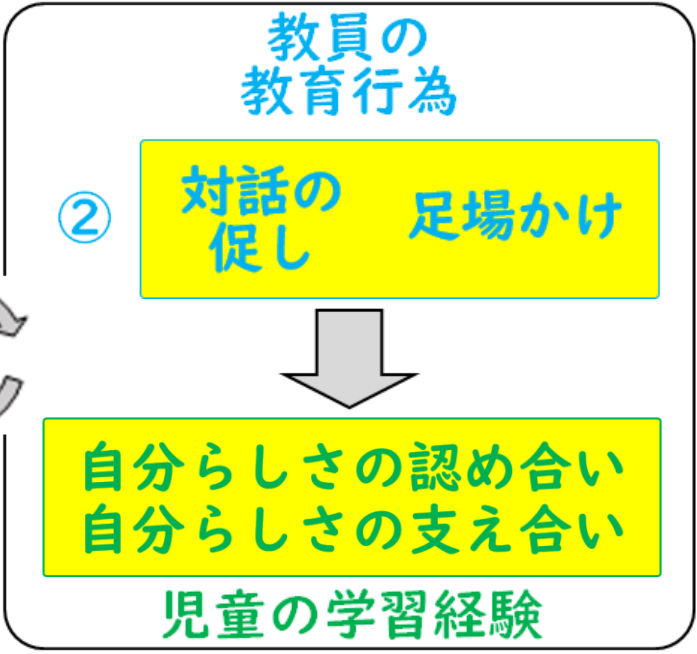
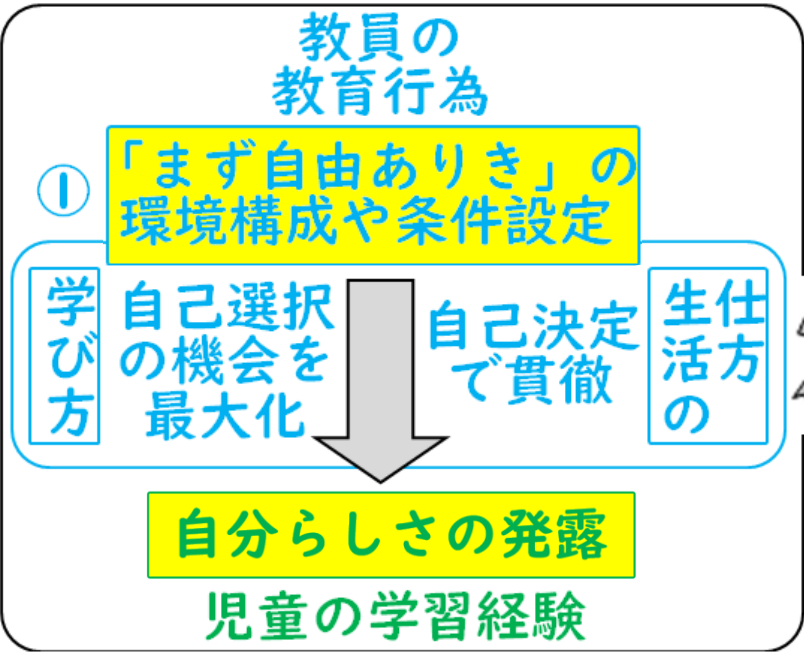
7つのエッセンス(横)と指標・計画と振り返り

通んで 取り組む	計画する	協働する	生み出す	プレゼンテー ションする	振り返る	責任をもつ
仲間とつながる	一歩前進の 予定を立てる。	仲間と分け合う。	新しいことを思い 出す。	知識の網に立つ。	起きた出来事を 語る。	「なぜその学び方を 選んだのか」を説明す る。
進んで学ぶ	自分が何をしなけれ ばいけないか言う。	仲間の「考える時 間」を大にする。	いつも思い続ける。	自然で、自分らしく 表現する。	得意なことや 得意なことや 得意なことや	ひつような学習用具 をみんながし、片付け る。
探究する	課題に必要な情報を 集める。	相手の立場に立つ て考える。	代わりのアイデアを 思い出す。	得意なことや 得意なことや	仲間のアドバイスを 受けて止める。	自分と仲間の意見の 差を大にする。
自分の強みを活かす	順序を替えて進め る。	説明を聞いた後、自 ら説明したりする。	説明があってもあ らぬ事に落ち込んで 泣いたりする。	ジョスチャーを使 って表現する。	仲間にアドバイ スをする。	分からないことはだ れかに説明を求め、 納得する。
心の目指す を高くもつ						達成していること や達成に近づく ことを説明する。
目標意識を 養える。						可能性につ いて説明する。
情熱をさが す。						理由を 説明する。

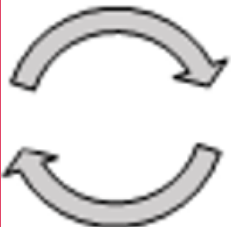
振り返り

児童のありのままを
肯定する

背伸びをせずに
自分を振り返ろう



① 苦手だったことも振り返る
→ 弱みを受け入れ、努力する姿

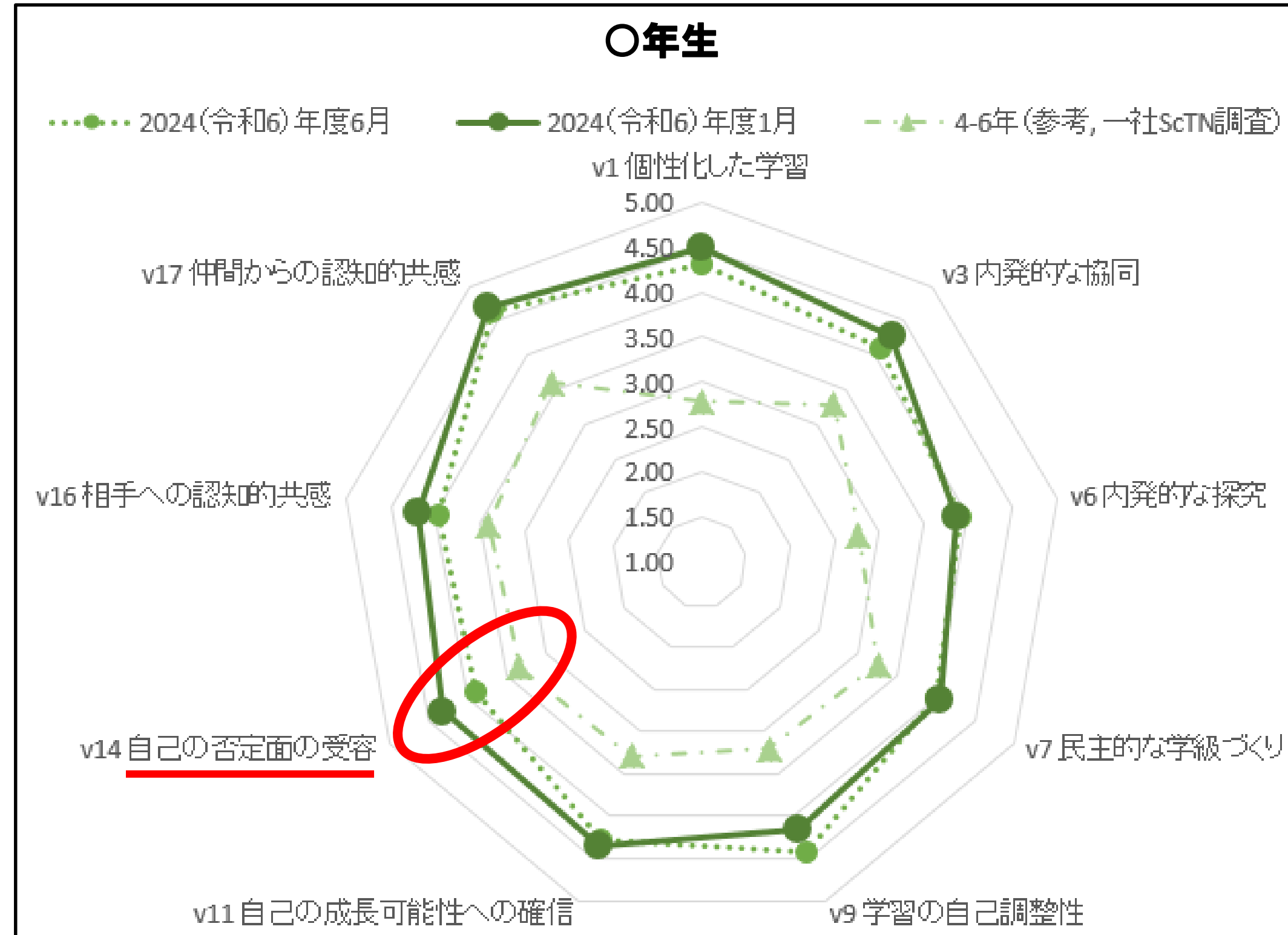


② 教えてもらってどうでした？
→ すごく分かりやすかった

3. 実証研究の分析

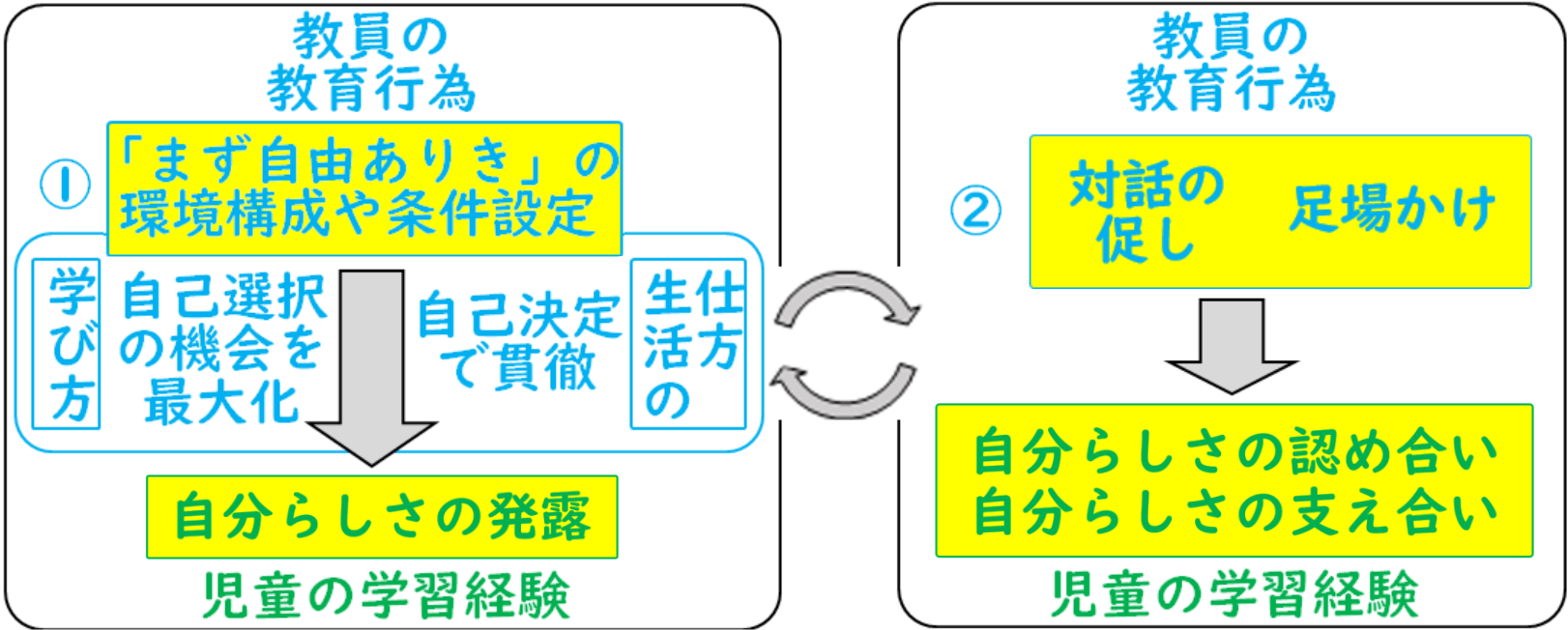
ANALYSIS

○年生のScTN質問紙の結果について（6月、1月）



弱みも含めた自分らしさを肯定的に受け止められている、自己肯定感の高さ

アドベンチャー
プログラム（□年）



5つの大切にしたいこと

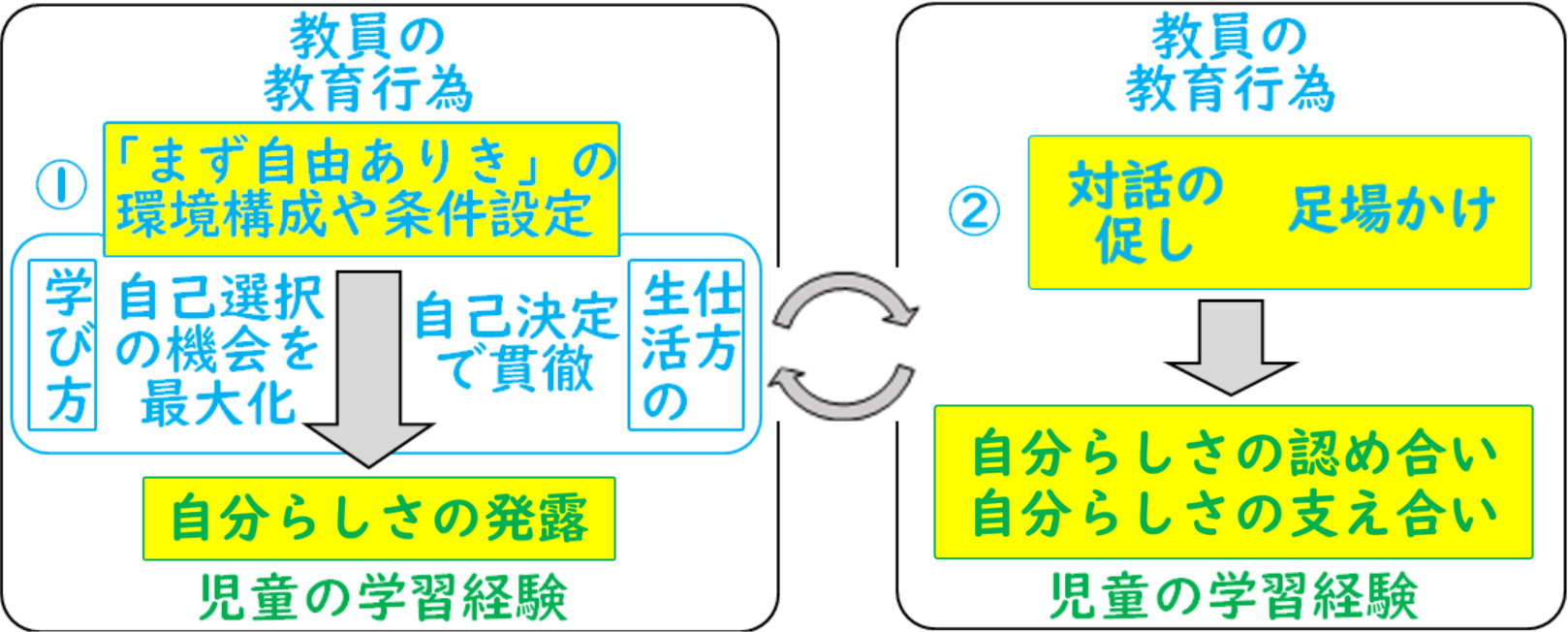
- 楽しむ
- 公正・公平にやる
- 参加する
- 安全にやる
- 一生懸命やる

①遊びに参加できる環境
→自分らしさを出せるように



②大切にしたいことを話し合う
→互いのチャレンジを大切に

ジャーナル、
パートーク
(□年)



縦から
横へ

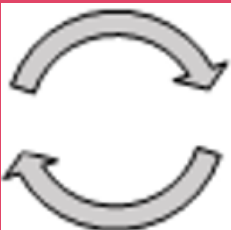


ジャーナル：
児童の振り返り日記

遊びや対話を通して、まずは
児童と教師の関係性を深める

パートーク：
1対1の対話

①児童と教師の縦の関係性
→自分らしさを出せるように

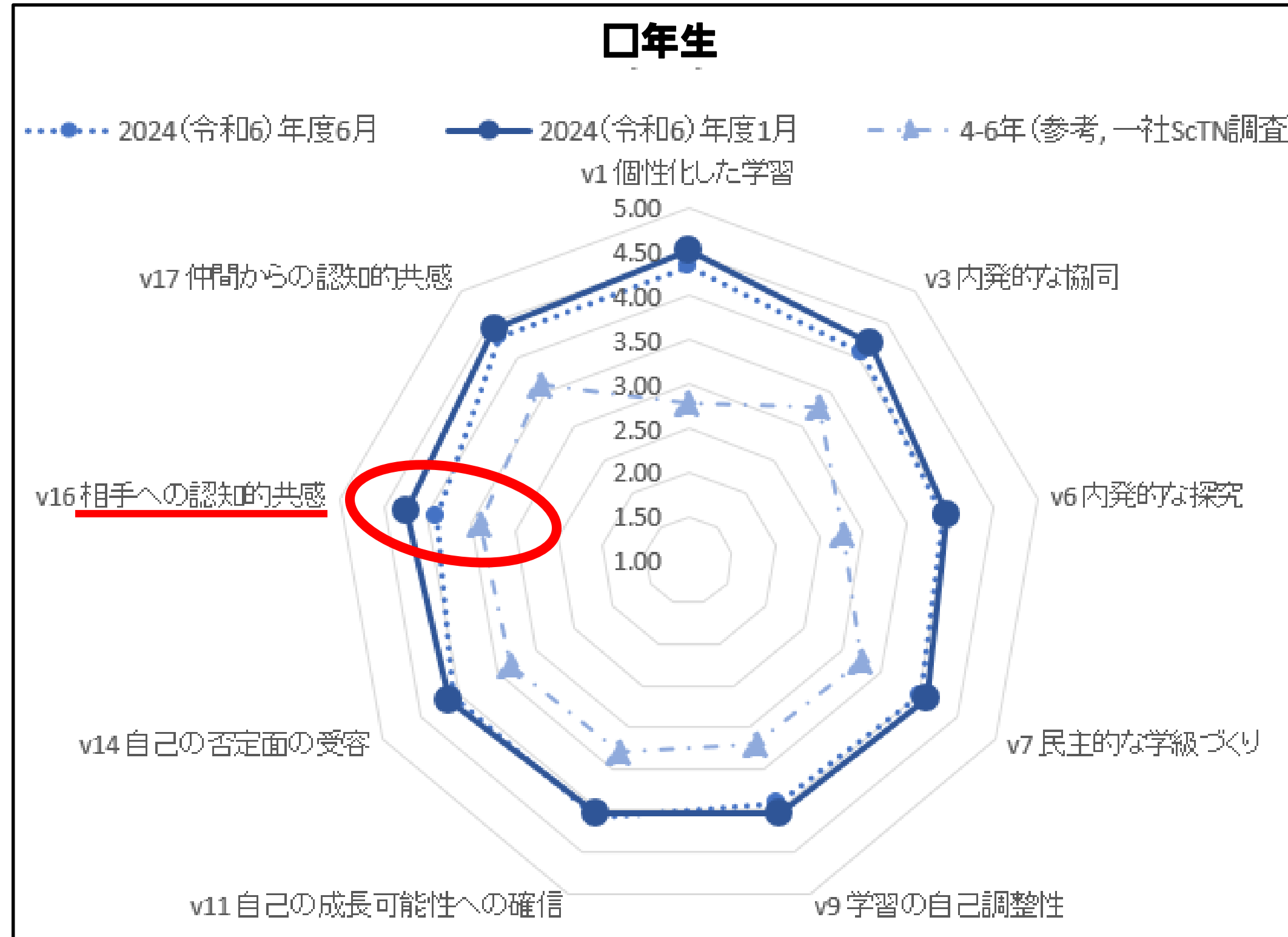


②児童同士の横の関係性につなぐ
→互いの自分らしさを認め合う

3. 実証研究の分析

ANALYSIS

□年生のScTN質問紙の結果について（6月、1月）



周りの考えを受け止める「相手への認知的共感」の数値が特に上がっている

3. 実証研究の分析

ANALYSIS

(6) 児童インタビューの概要（特筆すべき児童を中心に）

中学年 A 児

よみ

- ・間違いを恐れず、心に思ったことを表現できるので、チャレンジする雰囲気や学級をつくり出すことができる
- ・学習に取り組む集中力があり、学習を進めるスピードも速い

困難さ

- ・心に思った事がすぐに口に出てしまう
- ・反応が早いですが、自分の思いに処理能力が追いつかないため、イライラしやすい

年度当初

このクラスで、自分らしくいられると思ったことはない！
〇〇は少し得意。
〇〇になりたい。



〇〇や□□が得意という自分らしさが少し出しやすくなった。
でも、他の子の□□が認められていて、おもしろくない！

年度末

自分の好きなことを探究的に学ぶ自分らしさをもっと認めてほしい。

(6) 児童インタビューの概要

中学年 B 児

よさ

- ・ 支援の言葉掛けにより、自分を成長させようとチャレンジする姿勢を強くもつことができる
- ・ 読書が好きで、探究心旺盛。学力は高い

困難さ

- ・ 学習には自信をもっているが、出来ない事に直面すると感情が昂り泣いてしまう
- ・ 細かなことにこだわり、仲間とすれ違ってしてしまうことがある。

年度当初

一人で静かにやることが自分らしさ。
男女は意識して一緒にグループになるべきだよ。



読書で知識を得ること、続ける力が自分らしさ。思いやりをもって教えられる人のまねをしたい。

年度末

自分らしさを生かして仲間と協力できるようになりたい。

3. 実証研究の分析

ANALYSIS

(6) 児童インタビューの概要

高学年C児

よさ

- ・周りのために率先して動くことができる
- ・正義感が強く、友達思い

困難さ

- ・感情的になりやすく、すぐに手が出てしまう
- ・自己肯定感が低い

年度当初

友達と遊んでいるときに自分らしくいられる。
クラスはもっと協力し合えるようになってほしい。



クラスでのボランティア活動で自分らしさを出せている。クラスは切り替えが早くなってきて、自分も見倣っている。

年度末

自分らしく学んだり活動したりすることができてきた。

3. 実証研究の分析

ANALYSIS

(6) 児童インタビューの概要

高学年D児

よさ

- ・自分の好きなことに夢中になって取り組むことができる
- ・愛嬌があり、自分で決めたことは最後までやり遂げる

困難さ

- ・自己肯定感が低い
- ・感情のコントロールがうまくできない
- ・コミュニケーション能力が高くない

年度当初

セレクトタイムではやりたい課題に取り組めて自分らしくいられる。クラスは感じが悪い時がある。



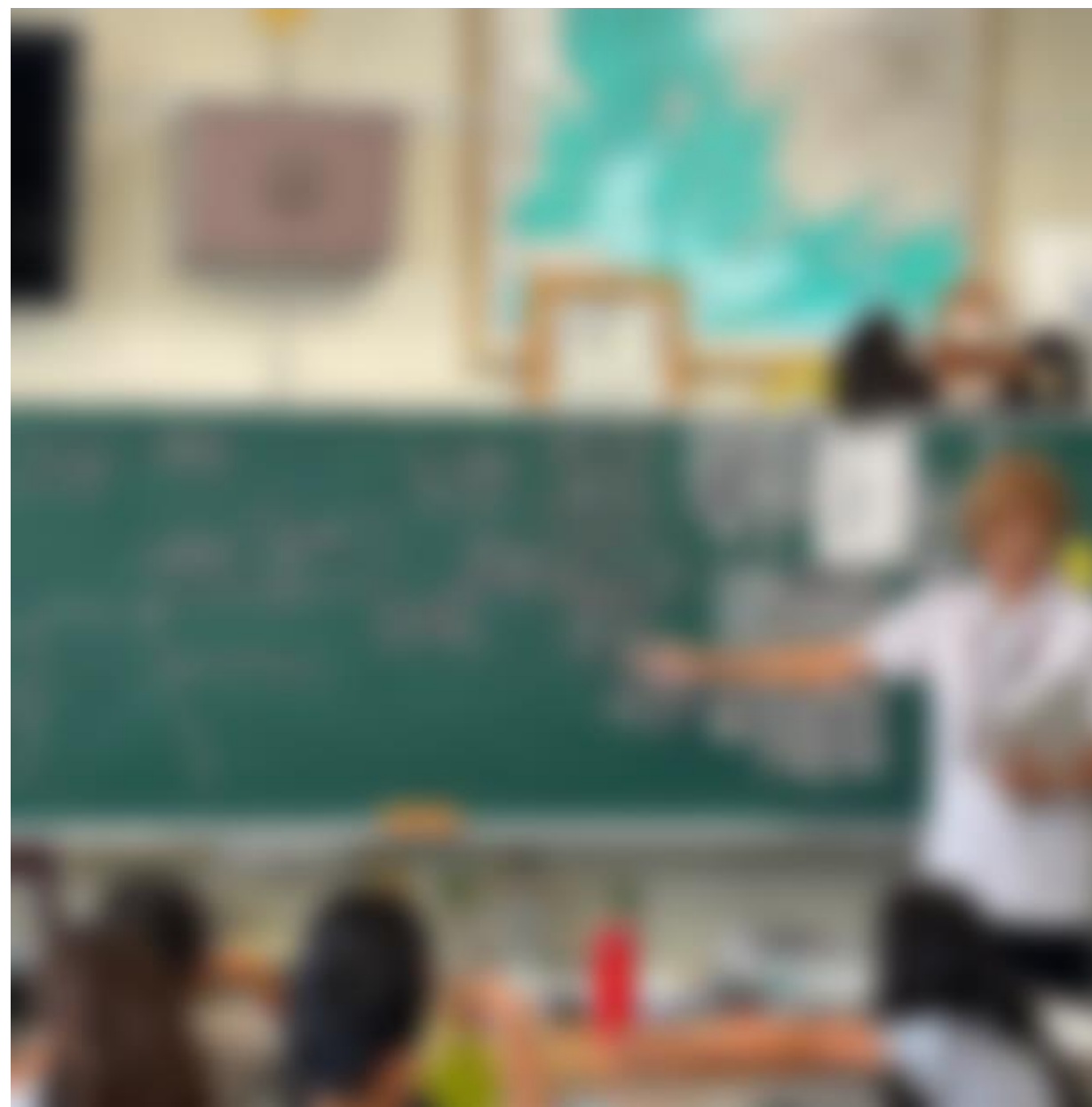
優しさが自分らしさ。でも、もっと認めてほしい。協力し合えるクラスになってきた。素早く行動することで貢献している。

年度末

自分らしさをもっと認めてほしい。もっと学校で楽しく過ごしたい。

4.

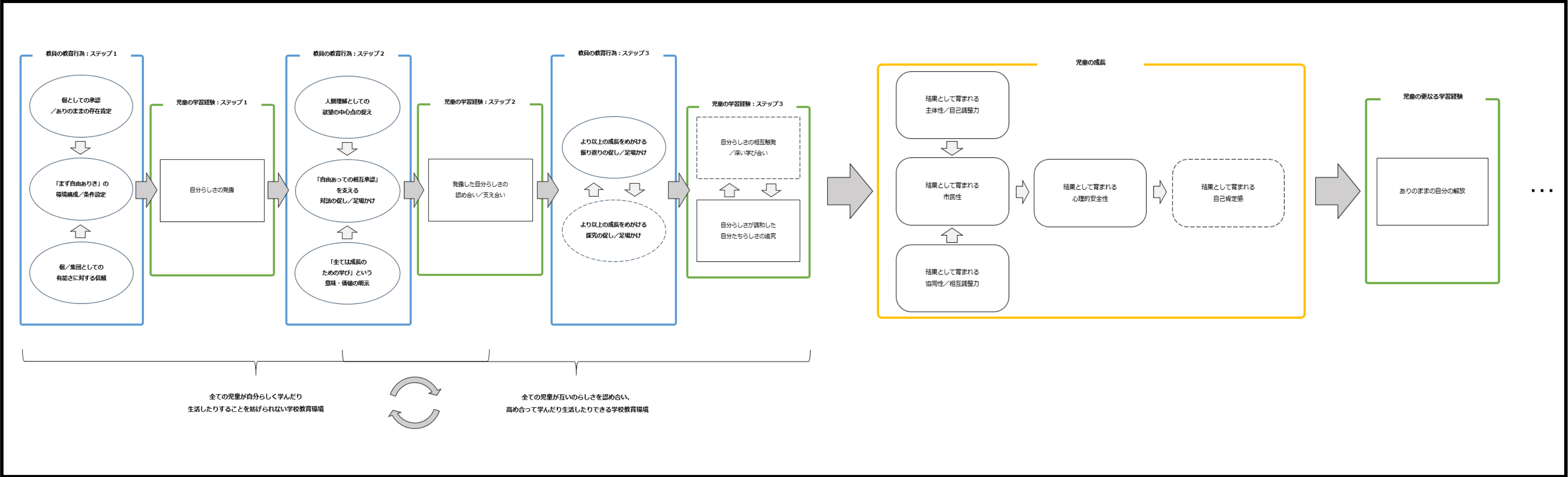
実証研究の 成果と課題



4. 実証研究の成果と課題

① 成果

名古屋市や全国に横展開が可能な「全ての児童に多様性の包摂を通じて自由と自由の相互承認を実質化する、学校教育環境の在り方モデル」を示すことができた。



4. 実証研究の成果と課題

教員の教育行為 ステップ1

個としての承認
／ありのままの存在肯定

「まず自由ありき」の
環境構成／条件設定

個／集団としての
有能さに対する信頼

教員の教育行為 ステップ2

人間理解としての
欲望の中心点の捉え

「自由あつての相互承認」
を支える対話の促し／
足場かけ

「全ては成長のための
学び」という
意味・価値の明示

教員の教育行為 ステップ3

より以上の成長を
めがける振り返りの促し
／足場かけ

より以上の成長を
めがける探究の促し
／足場かけ

3ステップ、8つの教育行為の事例を名古屋市として積み重ね、共有していく

4. 実証研究の成果と課題

② 課題

実証研究協力校においても、「場は共にしていても、思考は共にしていない」学習の状況が見られることがある。下記の3条件を意識しながら、大掛かりな仕掛けではなく、「自然な／それとない仕掛け」をしていくことが課題である。

学習指導において

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を成立させる

3条件

魅力的な
プロジェクトの
設定

適度に挑戦的な
目標の設定と共有

計画的に偶発させた
ペアやグループの
編成

自由進度学習の課題を全国の自治体と共有、解決していく。

令和6年度 特定分野に得意な 才能のある児童生徒への 支援の推進事業



名古屋市教育委員会

新しい学校づくり推進課

REPORT